

# 授業研究会

# 指導案

令和6年度 テーマ

～ 考察力の育成 ～

2024/12/16 (月)

大阪府立千里高等学校

## はじめに

千里高校では、毎年テーマを決め、授業研究会を開催しております。本校は令和4年度に、SSH第三期の指定を受け、その取組の柱のひとつに「考察力の育成」を掲げています。探究活動において重要となる考察力は、探究活動だけではなく、普段の授業でも培っていく必要がある力だと考えています。そこで、今回の授業研究会では「考察力の育成」をテーマとし、教科を越えた教員間の学び合いを目的といたしました。事前に全体研修と称し、教員間で考察力にどのような要素があるのか意見を出し合い、分類し、以下の7つの要素にまとめました。本授業研究会では、このうちの1つもしくは2つ以上を取り上げ、授業づくりをいたしました。

### <考察力の要素>

#### ①論理性

道すじ、見通しを立てる。基本法則から論理的に考える。

#### ②抽象化

具体的→抽象化。一般化。部分から全体に結びつける。

#### ③批判・疑問

疑問をもつ。情報の信憑性を疑う。批判的に物事を考える。

#### ④分析・比較

資料やグラフを読み解く。他と比較する。

#### ⑤言語化・表現

考えていることをことばにする。自分のことばで表現する。

#### ⑥創造力

新しいアイデアを出す。ヒラメキ。

#### ⑦視野の広さ・想像力

あらゆる観点から物事をみて考える。多面的・多角的に考える。イメージする。

生徒が主体的に取り組む資質・能力を評価できる授業をめざし、各教科・科目から選出された授業づくりチームが作り上げた授業案とその実践から“考察力の育成”と、それに対する生徒の姿を軸に、研究協議・全体共有会を実施します。公開授業においては、授業者の考察力の育成に対する生徒の様子をご覧ください。

また、今回の授業研究会では、「教科を越えた教員間の学び合い」と、「考察力の育成」について考えます。授業の専門的な内容ではなく、「考察力の育成」や生徒の様子に着目してもらうため、授業見学者の半数以上は他教科の教員となっております。教科・科目の専門的な内容よりも“もたらされた生徒の考察の深化”について研究協議を実施したいと考えております。

授業見学と研究協議の主な観点は、

- ① 本時の目標と、“考察力の育成”について
- ② 生徒の様子や変容と、本時の評価について

2点としています。研究協議や全体共有会が、『考察力の育成』の共有と、さらなる授業手法や可能性の模索ができるような場としたいと考えております。

本日の授業研究会が、参加者の皆様方にとって有益な機会になれば幸いです。

## 研究授業テーマ・授業場所等

教科・科目	授業づくりチーム	授業クラス	授業場所
国語①		1年1組	1年1組 HR 教室
科目とテーマ	<b>言語文化「伊勢物語『筒井筒』主人公の人物像を踏まえた本文の読解」</b>		
本時の目標	伊勢物語の主人公とされる在原業平の人物像を踏まえ、「筒井筒」後半部分を主体的に考察しながら読解し、内容を理解する。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：①論理性】 伊勢物語「芥川」「東下り」「筒井筒(前半部分)」から導き出される在原業平の人物像を踏まえ、「筒井筒(後半部分)」の展開について見通しをたてながら読解する。		
芸体家情		1年2組	音楽教室
科目とテーマ	<b>音楽Ⅰ「音楽の要素から表現方法を考える」</b>		
本時の目標	楽譜から読み取れる音楽の要素から、音楽的な表現方法を考察する。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：④分析・比較、⑤言語化・表現】 楽曲におけるさまざまな音楽の要素の働きを分析し、グループごとに表現方法を考える。		
英語		1年3組	1年3組 HR 教室
科目とテーマ	<b>総合英語 R「研修旅行の資料を用いて提案をしよう」</b>		
本時の目標	ホームステイ先からの資料を使い、活動内容について吟味・提案をする。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：③批判・疑問、⑤言語化・表現】 研修旅行の資料を用いて、ホームステイ中の活動についてホストファミリーに提案する。資料の内容に疑問を持ち、新たな提案をする力を育成する。		
数学①		1年4組	1年4組 HR 教室
科目とテーマ	<b>数学 A「ゲームの必勝法を考える」</b>		
本時の目標	ゲームに数学的な要素を見だし、数学を活用して考察する。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：①論理性、②抽象化、⑤言語化・表現、⑦視野の広さ・想像力】 グループで必勝法を考え、自分の考えを表現したり伝えあったりする活動を通して、論理的に考える力を育成する。また、条件を変えたり、抽象化したりすると必勝法があるのかについても話し合い、考察力を育成する。		
社会		1年5組	1年5組 HR 教室
科目とテーマ	<b>公共「君たちはどう立てるか ～仮説の立案に挑戦～」</b>		
本時の目標	ワーク・ライフ・バランスにまつわる諸課題・現象について、その根源がどこにあるか、仮説を立てる。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：①論理性、⑦視野の広さ・想像力】 有給消化率の低さなどの現象について、その根源にどのような社会的背景があるのか道筋を立てながら考える。立案した仮説をグループで共有しながら、さらに踏み込んだ仮説を考え出す。		
理科		1年6組	化学実験室
科目とテーマ	<b>理数物理「重さと質量」</b>		
本時の目標	学習した自然法則をもとに、実験結果を考察し、理解する。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：③批判・疑問、④分析・比較】 天秤と風船を用いた実験を行い、結果に疑問を持ち、自然法則をもとに分析し、理解を深める。		
国語②		1年7組	1年7組 HR 教室
科目とテーマ	<b>言語文化「伊勢物語『筒井筒』主人公の人物像を踏まえた本文の読解」</b>		
本時の目標	伊勢物語の主人公とされる在原業平の人物像を踏まえ、「筒井筒」後半部分を主体的に考察しながら読解し、内容を理解する。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：①論理性】 伊勢物語「芥川」「東下り」「筒井筒(前半部分)」から導き出される在原業平の人物像を踏まえ、「筒井筒(後半部分)」の展開について見通しをたてながら読解する。		
数学②		1年8組	1年8組 HR 教室
科目とテーマ	<b>数学 A「ゲームの必勝法を考える」</b>		
本時の目標	ゲームに数学的な要素を見だし、数学を活用して考察する。		
考察力の要素とねらい	【考察力の要素：①論理性、②抽象化、⑤言語化・表現、⑦視野の広さ・想像力】 グループで必勝法を考え、自分の考えを表現したり伝えあったりする活動を通して、論理的に考える力を育成する。また、条件を変えたり、抽象化したりすると必勝法があるのかについても話し合い、考察力を育成する。		

# 学習指導案

## 国語科

授業づくりチームメンバー	授業者	科目	対象クラス	教室
		言語文化	1年1組・1年7組	1-1 教室・1-7 教室

<b>1. 単元名</b>
伊勢物語 筒井筒
<b>2. 単元の目標</b>
主人公の「男」の人物像を理解することができる。「筒井筒」後半における、「男」の行動の理由について理解することができる。

### 3. 単元の指導と評価の計画（全1時間）

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容 〔何を学ぶか〕	学習活動 〔どのように学ぶか〕	評価の観点			主な評価規準【観点】と評価方法等 〔何ができるようになるか〕
			知	思	主	
1 回完結型につき記載なし						

<b>4. 本時のテーマ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公「男」の人物像を考察する。</li> <li>・「筒井筒」後半を読解し、「男」の行動の理由について考察する。</li> </ul>
<b>5. 本時の目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の「男」の人物像を理解することができる。</li> <li>・「筒井筒」後半における、「男」の行動の理由について理解することができる。</li> </ul>
<b>6. 取り上げる「考察力」の要素（別紙①～⑦のうちのどれか）</b>
①論理性
<b>7. 「考察力」の育成のねらい</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「芥川」「あづま下り」「筒井筒(前半)」の登場人物である「男」が同一人物であると仮定した場合、「男」とはどのような人物だと考えられるか考察する。また、「筒井筒(後半)」における「男」の行動の理由について、和歌に着目し、考察する。</li> </ul>

### 8. 本時の評価規準・判断基準

観点	「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて
知・技	「男」の人物像について、過去の学習内容を踏まえ、論理的に考察できる。また、「男」の行動の理由について、和歌を手掛かりに考察できる。	「男」の人物像について、他者とともに考察できる。また、「男」の行動の理由について考察できる。	助言を行い、考察ができるように促す。
思・判・	「男」の人物像について過去の学	「男」の人物像について、言語化する	助言を行い、考察ができるように促

表	習内容を踏まえ、自分の言葉で言語化できる。また、「男」の行動の理由について、和歌を解釈し、自分の言葉で言語化できる。	ことができる。また、「男」の行動の理由について言語化できる。	す。
主体性	「男」の人物像と物語後半部分の行動の理由について、他者を巻き込んで考察しようとする。	「男」の人物像と物語後半部分の行動の理由について、自分なりに考察しようとする。	助言を行い、考察ができるように促す。

## 9. 本時の学習過程

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの配付</li> <li>グループを組む</li> <li>本時の目標の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス全体で本時の目標を確認する。</li> <li>一斉指導の際の生徒の切り替えに留意する。</li> </ul>	
展開 1 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に入力したフォームの入力結果の提示</li> <li>伊勢物語と在原業平についての説明</li> <li>「男＝在原業平」の人物像の考察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストマイニングを利用し、入力した結果を視覚的に捉えやすくする。</li> <li>他者と意見交流する時間を設定し、課題に対して多面的に考えられるように留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【思考・判断・表現】 課題に対する自分の意見を言語化することができているか。</li> <li>●【主体性】 課題に対して自分なりの意見を持つようとしているか。</li> </ul>
展開 2 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の後半部分の読解</li> <li>「男」の行動とその理由に関する考察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語後半の「男」内容について、班で確認させる。</li> <li>「男」の行動の理由について、根拠となる表現を本文中から探させる。その際、和歌の解釈にも着目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【知識・技能】 物語後半の内容について、単語や文法の知識を用いて、読解できているか。</li> <li>●【思考・判断・表現】 課題に対する自分の意見を言語化することができているか。</li> <li>●【主体性】 課題に対して自分なりの意見を持つようとしているか。</li> </ul>
まとめ 5分	本時の振り返り	・	

# 地歴・公民科

授業づくりチームメンバー	授業者	科目	対象クラス	教室
		公共	I年5組	I年5組HR教室

<b>1. 単元名</b>
労働問題と労働者の権利
<b>2. 単元の目標</b>
こんにちの労働問題について、その原因・要因に何があるか、仮説を立てて検証する。

## 3. 単元の指導と評価の計画（全2時間）

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容 〔何を学ぶか〕	学習活動 〔どのように学ぶか〕	評価の観点			主な評価規準【観点】と評価方法等 〔何ができるようになるか〕
			知	思	主	
1 本 時	労働問題の概要 仮説立案の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーク・ライフ・バランスにまつわる題材を通じて、自身の将来に深くかわかる事項として学習する。</li> <li>Web 検索をもちいずに、推論とアウトプットの反復を通じて仮説を立てる経験をつむ。</li> </ul>	●	○	○	[知] ワーク・ライフ・バランスにまつわる日本の労働環境について、簡単に説明できる。 [思] 原因と要因を分けて考えることができる。一般に指摘される原因に踏み込んで仮説を立てることができる。 [主] ワークに積極的に取り組み、グループの活動に協力的に参加できる。
2	帰納的検証 演繹的検証 参考資料の明示	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰納法と演繹法を復習し、検証方法の大きな二つの方針について学習する。</li> <li>自分で立てた仮説について、どのような資料を確かめるべきか、考察する経験をつむ。</li> <li>資料の収集と同時に、出典を記録する。</li> </ul>	●	●	○	[知] 帰納的検証と演繹的検証の違いについて、簡単に説明できる。 [思] 自分の立てた仮説について、帰納的検証または演繹的検証をおこなうか判断できる。どのような情報や資料を確かめれば、仮説の是非を判断できるか考察できる。 [主] ワークに積極的に取り組み、グループの活動に協力的に参加できる。

<b>4. 本時のテーマ</b>
君たちはどう立てるか ～仮説立案にチャレンジ～
<b>5. 本時の目標</b>
社会的課題
<b>6. 取り上げる「考察力」の要素（別紙①～⑦のうちのどれか）</b>
①論理性、⑦視野の広さ・想像力
<b>7. 「考察力」の育成のねらい</b>
Web 検索を通じて得た情報を鵜呑みにするのではなく、社会的課題について自身の視点をもつ姿勢を育成する。

## 8. 本時の評価規準・判断基準

観点	「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) と判断された生徒に対する支援のてだて
知・技			
思・判・表	個人の行動や価値観など、自分の身のまわりに関連付けた仮説を立てることに成功している。	①原因と要因をわけて考えることができている。②要因について仮説を立てることに成功している。	①②: 適宜様子を見つつ、声掛けを通じて理解度をはかり、趣旨を理解できるよう促す。
主体性	ワークの趣旨を踏まえつつ、他者の視点や考えを柔軟に受けとめ、または見通しを立てて取り組んだ様子がうかがえる。	①ワークの趣旨に沿って取り組んでいる様子がうかがえる。②グループで協力して自分の意見を共有する様子がうかがえる。	①②: 適宜様子を見つつ、停滞しているようならば発問を通じて取り組みを促す。

## 9. 本時の学習過程

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを確認し、本時のワークの概要を認識する。</li> <li>有給休暇の取得率や、M字カーブ (M字型雇用) の現状について知る。</li> <li>STEP 1 に取り組み、トピックスの原因として思いつくもの考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示しているトピックスに加えて「男性育休取得率」や「フレックスタイム制の導入率」など、将来の労働環境にかかわる制度や現状などを提示し、自分事としてとらえるよう促す。</li> <li>STEP 1 で考える内容は直接的と思える原因にしぼるよう、また、複数挙げてみるよう促す。</li> </ul>	○[主] STEP 1 の取り組みにおいて、充実した記述がみられるか。
展開 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒント①を通じて「仮説を立てる」とはどのようなことか認識する。「原因」と「要因」の違いを認識する。</li> <li>STEP 2 に取り組み、原因を構成する要因を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒント①の説明を通じて、「仮説」と「答え」が異なることを認識するよう促す。身近な例を挙げて「原因」と「要因」の違いを理解できるよう促す。</li> <li>今回のワークでは、「主体」や「行動/価値観」まで具体化することを目標とするよう促す。</li> </ul>	○[思] STEP 2 の取り組みにおいて、ワークの趣旨を踏まえて要因を考え出すことができたか。
展開 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒント②を通じて「フィッシュボーン」について理解する。</li> <li>STEP 3 に取り組み、グループでフィッシュボーンを完成させる。グループワークを通じて様々な視点を獲得し、新たな原因や要因を考え出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒント②の説明を通じて、「フィッシュボーン」の使い方や狙いを認識するよう促す。</li> <li>STEP 3 に取り組み、Google スプレッドシートを共有してフィッシュボーンを完成させるよう促す。未入力部分について、方針 A/B を参考にしながら完成させるよう促す。</li> </ul>	○[思] STEP 3 の取り組みにおいて、ワークの趣旨を踏まえてフィッシュボーンを作成できたか。 ○[主] STEP 3 の取り組みにおいて、グループ内で協力してフィッシュボーンの完成に寄与したかどうか。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>STEP 4 に取り組み、自身の仮説を立てる。</li> <li>STEP 5 に取り組み、本時を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>STEP 4 で立てる仮説は具体的な主体や、個人の行動/価値観に迫るものとなるよう、再度注意喚起する。</li> <li>最後に、次回は仮説を検証するワークとなることを周知する。</li> </ul>	○[思] これまでの取り組みを通じて、STEP 4 で立てた仮説がより精度の高いものとなっているか。 ○[主] STEP 5 において、自身の取り組みに対する振り返りや今後の展望についての記述が充実しているか。



2024年58期公共「ワーク・ライフ・バランスを阻害する要因」について考察するアクティビティ

1. 後期は様々な社会的課題について考察したり検証したりする機会が増えます。今回のテーマは「ワーク・ライフ・バランス」です。「働き方改革」や「育ボス」など、様々な言葉が飛び交いますが、実態や現状、そしてこれを阻害する要因は何でしょうか？
2. アクティビティの目標は、「仮説を立てること」  
「仮説の是非(正しさ/間違い)を確かめること」  
「是非の根拠となる出典を記録すること」の3つです。
3. 今回の取り組みは「主体性」の観点評価に含めます。今後、この経験をもとに「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」に関わる発展的なアクティビティをおこなうことを見越して、取り組んでください。

Section 1 「君たちはどう立てるか～仮説立案に挑戦～」

STEP 1 今回は「有給休暇取得率はなぜ低いのか？(教科書 P.156)」というテーマで取り組みましょう。では、「その主な『原因』だと思ふこと」を幾つか考えて、下の空欄に簡単にメモしておきましょう。

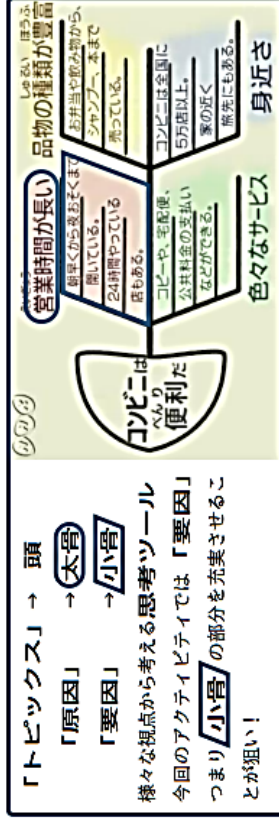
主な「原因」として考えられるのは……

STEP 2 STEP 1 で考えた内容について、以下の Work 1～2 の手順を踏まえつつ、「どんなことが『要因』として考えられるか」掘り下げてみましょう。

Work 1 「原因」を構成している複数の「要因」を考えてみよう。

Work 2 「要因」を1つ選び、原因/トピックスまで文章にしよう。

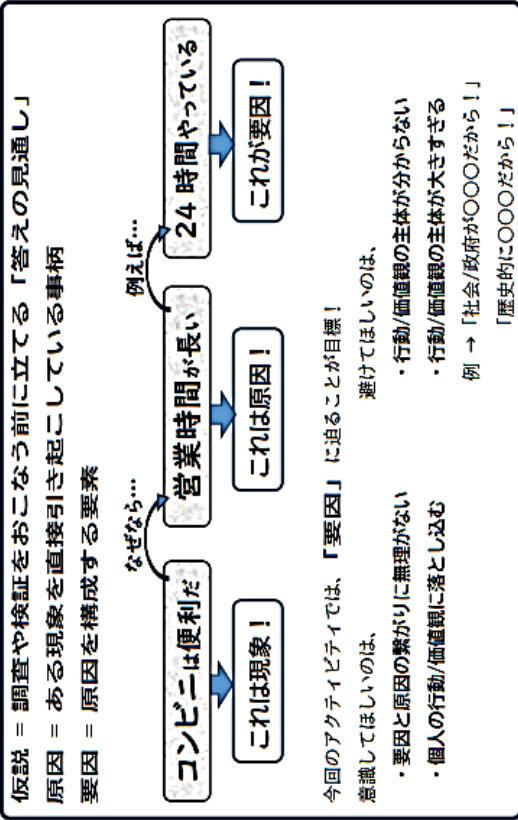
ヒント②「フィッシュボーン」とは？



STEP 3 テーマごとにグループに分かれ、STEP 1～2 で考えた内容について「フィッシュボーン」を用いて共有しましょう。空白があれば、以下の方針A/Bを踏まえつつ、影響力/説得力がある「原因」や「要因」についてアイデアを出し合って完成させましょう。

- グループメンバー（
- 方針A 幾つかの「原因」に共通する「要因」を探してみる
  - 方針B 幾つかの「要因」に共通する法則性を探してみる

ヒント①「仮説を立てる」とは？



2024年58期公共「ワーク・ライフ・バランスを阻害する要因」について考察するアクティビティ

STEP 4 STEP 3で得た知見をふまえて仮説を立てましょう。「フィッシュボーン」で挙げた「要因」のうち、「最も影響力/説得力があると思うもの」を使ってみましょう。ヒント①の内容を意識しながら、下の「.....」に当てはまるように表現を工夫しつつ、仮説を立ててみましょう。

有給休暇取得率が低いのは、

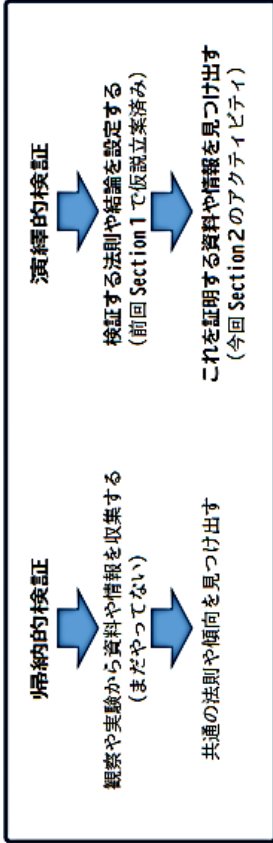
(主体)「.....」が、

(行動/価値観)「.....」...からだと思う。

STEP 5 Section 1「君たちはどう立てるか～仮説立案に挑戦～」のアクティビティを通じて、考えたことや印象に残ったこと、新たに得た知見などについて、下の空欄に自由に記述してください。

本日はこれで終了。次回に続く。

Section 2 「仮説を立てただけなのに～仮説検証に挑戦～」  
 ヒント③ 「検証方法の2つの方針～帰納的検証と演繹的検証～」



STEP 1 演繹的検証の手法にもとづき、Section 1 で立てた仮説を検証してみましょう。まずは、どんな情報が手に入れば仮説の是非を確かめることができるか、検証方針をたてましょう。  
 仮説の検証として...

(主体)「.....」が、

(行動/価値観)「.....」...かどうかを

確かめることができるのであれば良いはず!

STEP 2 Section 1で一緒に作業したグループで、STEP 1で考えた内容を共有して、評価しあいましょう。より具体的な検証方針へのアドバイスを下の方の空欄に書き留めておきましょう。

STEP 3 仮説を検証しましょう。教科書や資料集の資料出典を参考にし、Web 検索で調べましょう。有益な情報を記録するとともに、出典元として「Web ページの作成者」と「Web ページ/記事/電子データのタイトル」を記録しましょう。

STEP 4 選択したトピックスについて、現状や実態について Web 検索を用いて調査しましょう。教科書や資料集の資料出典を参考にし、Web 検索で調べましょう。有益な情報は、参照資料として扱えるよう、「Web ページの作成者」と「Web ページ/記事/電子データのタイトル」を出展元として記録しましょう。

STEP 5 検証の成否(検証できた/できなかった)、仮説の是非(正しかった/間違っていた)を判断し、グループで結果を共有しましょう。

検証の成否 … 《  検証できた  検証できなかった 》

仮説の是非 … 「.....」

…という点で、《  正しかった  間違っていた 》

STEP 6 一連のアクティビティを通じて、考えたことや印象に残ったこと、新たに得た知見などについて、下の空欄に自由に記述してください。

# 数学科

授業づくりチームメンバー	授業者	科目	対象クラス	教室
		数学A	1年4組・1年8組	1-4教室・1-8教室

<b>1. 単元名</b>
数学と人間の活動
<b>2. 単元の目標</b>
数学と人間の活動について、数学的活動を通して、それらを数理的に考察することの有用性を認識する

### 3. 単元の指導と評価の計画（全1時間）

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容 〔何を学ぶか〕	学習活動 〔どのように学ぶか〕	評価の観点			主な評価規準【観点】と評価方法等 〔何ができるようになるか〕
			知	思	主	
1 回完結型につき記載なし						

<b>4. 本時のテーマ</b>
ゲームの必勝法を考える
<b>5. 本時の目標</b>
ゲームに数学的な要素を見だし、数学を活用して考察する。
<b>6. 取り上げる「考察力」の要素（別紙①～⑦のうちのどれか）</b>
① 論理性、②抽象化、⑤言語化・表現、⑦視野の広さ・想像力
<b>7. 「考察力」の育成のねらい</b>
グループで必勝法を考え、自分の考えを表現したり伝えあったりする活動を通して、論理的に考える力を育成する。また、条件を変えたり、抽象化したりすると必勝法があるのかについても話し合い、考察力を育成する。

### 8. 本時の評価規準・判断基準

観点	「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて
知・技	ゲームの設定を多面的かつ論理的に考え、ゲームで勝つ方法を導くことができる。	ゲームの設定を理解し、ゲームで勝つ方法を導くことができる。	声掛けをし、考察ができるように促す。
思・判・表	ゲームの設定やゲームの仕組みを論理的に考察し、式や文章で表現することができる。	ゲームの設定やゲームの仕組みを論理的に考察することができる。	声掛けをし、考察ができるように促す。
主体性	ゲームで勝つ方法やゲームの仕組みなどを、論理的に考察し、条件を変えた場合や抽象化した場合についても考察しようとする。	ゲームで勝つ方法やゲームの仕組みなどを、論理的に考察しようとする。	声掛けをし、考察ができるように促す。

## 9. 本時の学習過程

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループを組む（事前に組んだ10班）</li> <li>・今回の目標の説明</li> <li>・ワークシートの配布</li> <li>・Chromebookを準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を全員で共有する</li> </ul>	
展開 15分 展開 2 15分 展開 3 12分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石取りゲームのルールを説明する。</li> <li>・班内の2人組（場合によっては3人組）で、石取りゲーム（石の数20個、一度に取れる石の数は3個まで、最後に石を取れなくなった方の負け）をし、結果を記録する。</li> <li>・石取りゲームに勝つにはどうすればよいかを考えさせ、共有する。</li> <li>・石を取った後、残った石の個数<math>n</math>に着目し、<math>n=0\sim4</math>のとき、必勝法はあるかを考えさせる。</li> <li>・表4を埋め、石取りゲームの必勝法を考える。</li> <li>・石を取れる個数が<math>k</math>個である石取りゲーム(<math>k</math>個 ver)の必勝法を考えさせる。</li> <li>・余裕のある生徒には石取りゲーム(2山 ver)についても必勝法を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視をし、進捗状況を把握する。</li> <li>・表1において、Bが勝つにはどの場面で何個石を取ればよかったのかを考えさせる。</li> <li>・記録した表2,表3においても、同様のことを考えさせる。</li> <li>・<math>n=0</math>のときは誰が勝つかを考えさせる。</li> <li>・<math>n=1\sim3</math>のときは誰が勝つかを考えさせる。</li> <li>・<math>n=0</math>と<math>n=1\sim3</math>の結果から<math>n=4</math>のときはどうなるか考えさせる。</li> <li>・<math>n</math>が4の倍数になるように石を取れば勝てることを気づかせる。</li> <li>・具体的に<math>k=5, k=7</math>のときの表を書かせる。</li> <li>・<math>n</math>が<math>k+1</math>の倍数になるように石を取れば勝てることに気づかせる。</li> <li>・石取りゲーム(2山 ver)についても同様の考え方ができることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【主】（ワークシート）</li> <li>●【思】（ワークシート）</li> <li>●【知・思】（ワークシート）</li> <li>●【知・思】（ワークシート）</li> <li>●【知・思・主】（ワークシート）</li> </ul>

ま と め  5 分	・ 本日の振り返り  ・ 振り返りシートの記入・提出		○【主】(振り返りシート)
---------------------------	----------------------------------	--	---------------

石取りゲームの必勝法を見つけよう！

石取りゲームとは



石取りゲームは2人対戦のゲームです。先攻と後攻を決め、先攻から順番に30個の石から1個から3個の石を取ります。このとき、石が取れなくなった方が負けです。(つまり、最後の石を取った方が勝ちです)

1 まず遊ぶんでみましょう。グループで石取りゲームを2回行い、石取りゲームにどうやったら勝てるか考えてください。その際、下の例のように結果を記録してください。

A: 20個の石から、石を2個取ると、残りの石の数は(20→)19→18と変化するの  
で、19と18のマスにAと書く。

B: 残り18個の石から、石を3個取ると、残りの石の数は(18→)17→16→15と  
変化するのので、17,16,15のマスにBと書く。

.....

A: 残り2個の石から、石を2個取ると、残りの石の数は(2→)1→0と変化するの  
で、1と0のマスにAと書く。

B: Bは石を取れないのでBの負け。(Aが最後の石を取るのでAの勝ち)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	A	B	B	A	B	A	B	A	A
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
B	B	A	A	A	B	B	A	A	A

表1

(a) 一回目

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

表2

(b) 二回目

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

表3

2 石取りゲームに勝つにはどのような戦略をとればよいですか。考えを書き、話し合ってみよう。

3 石取りゲームの必勝法を考えてみよう。  
自分の手番で石を取った後、山に残った石の個数がnであるとき、自分に必勝法があるならnのマスに○を書き込み、相手に必勝法があるならnのマスに×を書き込みます。  
n = 0から考えます。

(a) n = 0のとき、自分の手番で石を取った後、石は残っていないので、相手は石  
が取れなくなり、自分が必ず  によって、0のマスに書き込む記号は  
 である。

(b) n = 1のとき、自分の手番で石を取った後、残った石は1個なので、相手は残り  
1個の石を取り、自分は石が取れなくなるので、自分は  によって自  
分に必勝法はないので、1のマスに書き込む記号は  である。

.....

(c) n = 4のとき、自分の手番で石を取った後、残った石は4個なので、相手は1~  
3個の石いづれを取ったとしても、それに応じて適当に石を取れば、自分は必ず  
 によって、4のマスに書き込む記号は  である。

nが5以上であるときも、同様に考えると、表は次のようになる。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

表4

表 4 より、この石取りゲームの必勝法は

4 他ゲームの必勝法についても考えてみよう。

石取りゲーム ( $k$  個 ver) とは

石取りゲームは 2 人対戦のゲームです。  
先攻と後攻を決め、先攻から順番に 30 個の石から  $1 \sim k$  個の石を取ります。  
このとき、石が取れなくなった方が負けです。(つまり、最後の石を取った方が勝ちです)

具体的に考えてみる。

(a)  $k = 5$  のとき

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

表 5

(b)  $k = 7$  のとき

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

表 6

この石取りゲーム ( $k$  個 ver) の必勝法は



5 もっと他のゲームの必勝法についても考えてみよう。(余裕のある人用)

石取りゲーム (2山 ver) とは

石取りゲーム (2山 ver) は 2 人対戦のゲームです。  
2 つの山の山があり、山にはそれぞれ 10 個ずつ石があります。(1山、2山と呼びます)  
先攻と後攻を決め、先攻から順番に、どちらか一方の山から 1~3 個の石を取ります。両方の山から石を取ることはできません。  
このとき、石が取れなくなった方が負けです。(最後の石を取った方が勝ちです。)

自分の順番で石を取った後、山に残った石がそれぞれ、 $n$ 、 $m$  であるとき、自分に必勝法があるなら、 $(n, m)$  のマスに  $\circ$  を書き込み、自分に必勝法がないなら  $(n, m)$  のマスに  $\times$  を書き込んでみよう。

$n \backslash m$	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0											
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											

表 7

# 理科

授業づくりチームメンバー	授業者	科目	対象クラス	教室
		理数物理	1年 6組	化学実験室

<b>1. 単元名</b>
運動の法則
<b>2. 単元の目標</b>
色々な力の性質についての理解を深める。

### 3. 単元の指導と評価の計画（全2時間）（1回完結型で不必要な場合もあります）

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容 〔何を学ぶか〕	学習活動 〔どのように学ぶか〕	評価の観点			主な評価規準【観点】と評価方法等 〔何ができるようになるか〕
			知	思	主	
1	重さと質量①	運動の第2法則の学習を通して、重さと質量の違いを理解する。	●			重さと質量の違いを説明できる。（知・技）
2 本 時	重さと質量②	天秤や風船を用いた実験を行い、現象を分析する。		●	●	実験結果に基づいて考察し、論理的に分析できる。（思・判・表） 班で協力して実験に取り組むことができる。（主体性）

<b>4. 本時のテーマ</b>
重さと質量
<b>5. 本時の目標</b>
天秤と風船を用いた実験を行い、結果に疑問を持ち、自然法則をもとに分析し、理解を深める。（思・判・表） 班で協力して実験に取り組む。（主体性）
<b>6. 取り上げる「考察力」の要素（別紙①～⑦のうちのどれか）</b>
③批判・疑問、④分析・比較
<b>7. 「考察力」の育成のねらい</b>
③予測と異なる実験結果に疑問を持ち、科学の知識と結び付けて考察できるようになる。 ④実験条件の違いが実験結果にどのような影響を与えているかを分析できるようになる。

### 8. 本時の評価規準・判断基準

観点	「十分満足できる」状況（A）	「概ね満足できる」状況（B）	「努力を要する」状況（C）と判断された生徒に対する支援のてだて
知・技			
思・判・表	実験結果に基づいて考察し、論理的な分析を表現できる。	実験結果に基づいて考察し、分析できる。	実験結果に基づいて考察できていない。 →実験結果について特に着目すべき点についてヒントを与える。



主体性	班で協力して実験に取り組み、積極的に発言することができる。	班で協力して実験に取り組むことが出来る。	班で協力して実験に取り組むことが出来ない。 →実験への積極的な参加を促す。
-----	-------------------------------	----------------------	--

## 9. 本時の学習過程

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天秤棒を使った紙風船とゴム風船の実験を班で行う（紙風船5班、ゴム風船5班に分かれる）。</li> <li>・実験結果をまとめ、隣の班と実験結果を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視を行い、適宜助言する。</li> <li>・なぜ、紙風船とゴム風船で結果に違いが出ているのかに注目するように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●班で協力して実験に取り組むことが出来ているか。（実験の様子）【主体性】</li> </ul>
展開 15分 展開 210分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子天秤でゴム風船の重量を測定し、しぼんだ状態と膨らんだ状態を比較する。</li> <li>・空気の平均分子量から空気の質量を算出する。</li> <li>・計算結果と測定結果について班ごとに、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器具の使い方について、適宜助言する。</li> <li>・机間巡視を行い、計算方法について、助言する。</li> <li>・計算結果と測定結果の違いがなぜ生まれたのかを考えさせる。特に、測定誤差以外の理由がないか考えさせる。</li> <li>・計算結果と測定結果の違いが空気の浮力の影響によるものであると気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●班で協力して実験に取り組むことが出来ているか。（実験の様子）【主体性】</li> </ul>
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天秤棒を使った紙風船とゴム風船の実験の結果について、浮力が関係していることに気づき、普段意識しない空気にも重さがあることを理解する。また、自分が考えたことを班で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙風船とゴム風船の空気の密度の違いを説明する。</li> <li>・浮力に着目して、紙風船とゴム風船の実験の結果の違いを説明するように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実験結果に基づいて考察し、分析できる。（発言内容）【思・判・表】</li> </ul>

1年 理科物理実験 空気にも重さはあるのか？

2024.12.16.

1年 組 番 名前

目的 日常生活しにくい空気や重さについて、実験を通して理解を深める。

準備 ゴム風船、紙風船、天秤棒、天秤棒、スタンド、電子天秤、電卓

実験手順

実験 1

1. 天秤棒の両端に、同じ大きさに膨らませたゴム風船（奇数班）または紙風船（偶数班）を取り付け釣り合わせる。
2. 片方の風船だけしぼませる。
3. 実験結果を隣の班と共有する。

結果

ゴ ム 風 船	片方をしぼませる
紙 風 船	

実験 2

1. 電子天秤でゴム風船の重さをしぼんだ状態と膨らませた状態で測り、その差を記録する。
2. 空気の平均分子量(28.8)から、ゴム風船内の空気の質量[g]を計算により求める。電子天秤の表示はSI単位系[N]ではなく重力単位系[kg 重]での重さを表示しているのので、質量の計算値を重さの予測値として読み替える。

結果

風船内の空気の重さ	
表測値	g 重
計算値	g 重

考察

1. 実験 2 で計算値と実測値に違いはあるか。違いがある場合、その原因は何か。力のつり合いを基に考察せよ。

2. 実験 2 の結果と考察 1 を踏まえると、実験 1 の結果をどのように理解することができるか。

3. 我々が日常的に空気の重さを意識しないのはなぜか。今回の実験と関連させて説明せよ。

4. 空気の重さを測定するときに注意する点は何か。どのような工夫が必要か。

結論

感想

# 英語科

授業づくりチームメンバー	授業者	科目	対象クラス	教室
		総合英語 R	I年3組	I年3組 HR 教室

<b>1. 単元名</b>
研修旅行の資料を用いて提案をしよう
<b>2. 単元の目標</b>
ホームステイ先からの資料を使い、活動内容について吟味・提案をする。

## 3. 単元の指導と評価の計画（全1時間）

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容 〔何を学ぶか〕	学習活動 〔どのように学ぶか〕	評価の観点			主な評価規準【観点】と評価方法等 〔何ができるようになるか〕
			知	思	主	
I 回完結型につき記載なし						

<b>4. 本時のテーマ</b>
研修旅行の資料を用いて提案をしよう
<b>5. 本時の目標</b>
ホームステイ先からの資料を使い、活動内容について吟味・提案をする。
<b>6. 取り上げる「考察力」の要素（別紙①～⑦のうちのどれか）</b>
③批判・疑問    ⑤言語化・表現
<b>7. 「考察力」の育成のねらい</b>
研修旅行の資料を用いてホームステイ中の活動についてホストファミリーに提案する。資料の内容に疑問を持ち、新たな提案をする力を育成する。

## 8. 本時の評価規準・判断基準


観点	「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) と判断された生徒に対する支援のてだて
知・技	—	—	—
思・判・表	資料中の変更すべき箇所を見つけ、その全てについて新たな提案をしている。	資料中の変更すべき箇所を見つけ、その一部について新たな提案をしている。	資料中の変更すべき箇所を見つけれない。また、新たな提案を一つもできない。提案するための表現等を助言する。
主体性	研修旅行の目的を理解しそれに合うような提案をしようとし、その提案が説得力のあるものになるよう工夫しようとしている。	研修旅行の目的を理解し、それに合うような提案をしようとしている。	研修旅行の目的に合うような提案をしようとしていない。生徒同士でアドバイスし合うようよう指示する。

## 9. 本時の学習過程

●…形成的評価、○…総括的評価

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ(4~5人)に分かれ、ワークシートを配布。</li> <li>【Situation】を読み、本時の目標を確認する。</li> </ul>		
展開 1 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【Dialogue】とe-mailを読み、予定の変更が必要な箇所を、その理由とともに考える。</li> <li>・考えた内容に基づき、また、Google Classroomで配信された資料を使用し、班ごとにメールの返信を考え、Google Slide上に打ち込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の表現力向上を狙いとするため、辞書機能及び翻訳機能の使用を認めず、自分が知っている単語や表現で伝えるよう声掛けをする。</li> <li>・提案のための表現について、必要に応じて個別指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【主体性】</li> <li>グループ内で協力し、提案をしようとしているか。(取り組みの様子)</li> </ul>
まとめ 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解答例を示し、提案すべき箇所を確認や表現の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとの解答例を示しながら、良い点を中心に内容の総括をする。生徒が気づけていない点があれば、その点に関する指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【思・判・表】</li> <li>変更すべき場所に関して、説得力のある提案をできているか。(課題の内容)</li> </ul>

**Plans for Your Homestay Program**

 Naranong Narin

Dear, Kazuki  
I am sending you the plans for the homestay program. If you have any questions, feel free to ask me!

6/28 08:00 Meeting  
~~~~~

6/29 07:00 Breakfast @ home  
09:30 Hartley's Crocodile Adventures  
12:30 Lunch @ KFC Cairns  
02:30 Cairns Museum  
06:00 Dinner @ Prawn Star Cairns  
6/30 06:30 Breakfast @ home  
07:00 Saying farewell @ the meeting spot

According to the teachers, they are going to \*take roll call at 7 o'clock, so I'll try to take you there on time.  
I'm looking forward to seeing you!

Best Regards,  
Narin

\*take roll call: 点呼をとる

**【Task】**

- ① Talk in a group about the plans made by Narin.
- ② Think about new plans and make suggestions to Narin.
- ③ Complete the reply to him using the Google Slide on Google Classroom.



**Let's Make Suggestions for Plans for a Homestay Program!**

**【Situation】**

Kazuki is going to join a homestay program with Takashi during the school trip to Cairns, Australia. His host father, Narin, has sent him an e-mail showing some plans about the program. In order to reply to Narin, they are talking about the plans. If you were Kazuki, what kind of suggestion would you make? Read the dialogue below and complete the reply to Narin.



**【Dialogue】**

**Kazuki:** Before we reply to Narin, let's check what we should do during the homestay program. What did Ms. Nakai say about the program?  
**Takashi:** She told us to experience something special in Cairns or Australia and to have extra time for everything. What do you want to do?  
**Kazuki:** I want something I can use at the beach and eat many kinds of Australian food. How about you?  
**Takashi:** As for food, I know Cairns is a good place to eat seafood, but I have an allergy to it. So, I want to eat a steak at a restaurant where we can enjoy the view of the sea. Also, it would be nice to buy a nice T-shirt and see unique animals in Australia.  
**Kazuki:** I'm sorry I am not interested in those animals. Do you have any more requests?  
**Takashi:** No. Can you make suggestions to Narin?  
**Kazuki:** Sure. When I finish making them, I'll ask Ms. Nakai to check them.  
**Takashi:** That's a good idea!



# 音楽科

|              |     |           |       |      |
|--------------|-----|-----------|-------|------|
| 授業づくりチームメンバー | 授業者 | 科目        | 対象クラス | 教室   |
|              |     | 芸術 I (音楽) | 1年2組  | 音楽教室 |

|                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1. 単元名</b>                                                                                                                                                                                              |
| 音楽 I 「音楽の要素から表現方法を考え、工夫して歌おう」                                                                                                                                                                              |
| <b>2. 単元の目標</b>                                                                                                                                                                                            |
| <p>【知・技】 創意工夫を生かした歌唱表現をするために、必要な表現上の効果を生かして歌う技能を身に付ける。</p> <p>【思・判・表】 音楽を形作っている要素を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌詞の内容を理解してどのように歌うかについて表現意図を持つ。</p> <p>【主体】 歌詞の内容や旋律に関心を持ち、主体的に歌唱の学習活動に取り組む。</p> |

## 3. 単元の指導と評価の計画 (全6時間)

●…形成的評価、○…総括的評価

| 時           | 学習内容<br>[何を学ぶか]                                                                     | 学習活動<br>[どのように学ぶか]                                                                                                                                               | 評価の観点 |   |   | 主な評価規準【観点】と評価方法等<br>[何ができるようになるか]                                                                                                                                                                          |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                     |                                                                                                                                                                  | 知     | 思 | 主 |                                                                                                                                                                                                            |
| 1<br>2<br>3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞内容の理解</li> <li>鑑賞</li> <li>歌唱練習</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「THIS IS ME」の歌詞を各自で日本語に訳し、内容を理解する。</li> <li>映画本編を鑑賞し、誰がどのような場面で歌っているかを理解する。</li> <li>歌詞をリズム読みして発音を理解し、英語で歌唱する。</li> </ul> | ●     |   |   | ●【知】 英語の歌詞の内容、旋律との関係を理解して歌唱することができる。(観察・ワークシート)                                                                                                                                                            |
| 4<br>本時     | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現の工夫</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>サビ部分の旋律や感情の違いを考える。</li> <li>サビ部分をどのように表現するか考え、グループで意見をまとめ、歌唱する。</li> </ul>                                                |       | ● | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>●【思】 旋律や構成などの音楽を形作っている要素と歌詞の内容とを関連付けて考えることができる。(観察・ワークシート)</li> <li>●【思】 曲にふさわしい音楽表現を考えることができる。(観察・ワークシート)</li> <li>○【主】 自分の表現したいことをまとめることができる。(振り返りシート)</li> </ul> |
| 5<br>6      | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現の工夫</li> <li>実技テスト</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>「THIS IS ME」をこれまでの学習を踏まえ、表現を工夫しながら歌唱する。</li> </ul>                                                                        | ●     | ○ |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●【知】 音楽的表現をするために必要な発声、発音などの歌唱技能を身に付け、創造的に歌唱することができる。(実技テスト)</li> <li>○【思】 音楽を形作っている要素を感受しながら、歌詞の内容を理解してどのように歌うかについて表現意図を持って歌唱することができる。(実技テスト)</li> </ul>            |

|                  |
|------------------|
| <b>4. 本時のテーマ</b> |
| 音楽の要素から表現方法を考える  |

|                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>5. 本時の目標</b>                                                                                 |
| 音楽を形作っている要素を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌詞の内容を理解してどのように歌うかについて表現意図をもつ。             |
| <b>6. 取り上げる「考察力」の要素（別紙①～⑦のうちのどれか）</b>                                                           |
| ④分析・比較、⑤言語化・表現                                                                                  |
| <b>7. 「考察力」の育成のねらい</b>                                                                          |
| 楽曲におけるさまざまな音楽の要素の働きを分析し、グループごとに表現を考察する。また、その表現したいことをどのように歌唱すれば聴き手に伝わるかを、実際に歌いながら考え、音楽的表現を深めていく。 |

## 8. 本時の評価規準・判断基準

| 観点    | 「十分満足できる」状況 (A)                                                             | 「概ね満足できる」状況 (B)                                                                    | 「努力を要する」状況 (C) と判断された生徒に対する支援のてだて |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 知・技   |                                                                             |                                                                                    |                                   |
| 思・判・表 | 楽曲にふさわしい音楽表現について、旋律や構成などの音楽を形作っている要素と歌詞の内容を手がかりにし、グループ活動において協働的に音楽表現を考えている。 | 旋律や構成などの音楽を形作っている要素と歌詞の内容とを関連付けながら、フレーズのまとまりや強弱の変化など、どのように音楽表現をすればよいか、試奏しながら考えている。 | 机間指導をしながら、個別に助言する。                |
| 主体性   | 曲の特徴や歌詞の内容、旋律との関係に関心を持ち、イメージを持って歌う学習に意欲的に取り組んでいる。                           | 曲の特徴や歌詞の内容、旋律との関係に関心を持ち、主体的に歌唱の学習に取り組んでいる。                                         | 机間指導をしながら、個別に助言する。                |

## 9. 本時の学習過程

●…形成的評価、○…総括的評価

| 時          | 学習内容・学習活動                                                                                  | 指導上の留意点                                                                                                                          | 評価規準（評価方法）                                                                                         |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>10分  | 1 ストレッチ・発声を行う。<br>全体で「THIS IS ME」を歌う。<br><br>2 本時の学習内容を確認する。                               | ・身体の使用方や口の開け方に気をつけて歌うようにする。<br>・旋律のまとまりを意識して歌えるように助言する。<br>音楽を形作っている要素に着目して、自分たちの表現を考えてみよう。                                      |                                                                                                    |
| 展開Ⅰ<br>20分 | 3 各自、楽譜から読み取れる歌詞や旋律の特徴をワークシートにまとめる。<br><br>4 グループに分かれ、どのように歌ったらよいか、ワークシートを使って話し合い、意見をまとめる。 | ・「THIS IS ME」の旋律について、教科書記載の音楽の要素に着目しながら、各自でワークシートに記入させる。<br><br>・個人で表現の工夫を記入した後、グループ内で互いに意見を聞き合い、まとめる。<br>・工夫したところを各自の楽譜に書き込ませる。 | ●【思】旋律や構成などの音楽を形作っている要素と歌詞の内容とを関連付けて考えることができる。（観察・ワークシート）<br>●【思】曲にふさわしい音楽表現を考えることができる。（観察・ワークシート） |

|                    |                                                                               |                                                                                                                              |                                            |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <p>展開2<br/>15分</p> | <p>5 グループで試奏しながら話し合い、音楽表現を工夫する。</p> <p>6 本時の学習をふまえ、全体で「THIS IS ME」を通して歌う。</p> | <p>・グループで表現を工夫して歌う際に、工夫してどうだったか、その工夫で良いかなどを問い返すことで、ふさわしい音楽表現を追求させ、思いや意図をもてるようにする。</p> <p>・今回取り上げた小節以外についても表現を考えて歌うように促す。</p> |                                            |
| <p>まとめ<br/>5分</p>  | <p>7 授業の振り返りをする。</p>                                                          | <p>・次回からはグループで考えた表現を自分の歌唱表現に生かすように伝える。</p>                                                                                   | <p>○【主】自分の表現したいことをまとめることができる。(振り返りシート)</p> |



千里高校 芸家体情科 「THIS IS ME」の表現を考えてみよう！

年 組 番 名 前

---

① 曲中に繰り返し出てくるサビ部分について、

1番（2ページ3段目最後の小節～3ページ2段目）と3番（9ページ2段目～11ページ1段目）の楽譜でどのような違いがありますか？それぞれ歌詞や旋律の特徴、感情についてまとめてみましょう。

| 1番 歌詞や旋律の特徴 | どのような感情？ |
|-------------|----------|
|             |          |

| 3番 歌詞や旋律の特徴 | どのような感情？ |
|-------------|----------|
|             |          |

ヒント：音楽を織りなす様々な要素（教科書130ページ）に着目してみましょう。  
音色、リズム、拍子、速度、旋律、テクスチャ、強弱、歌詞、他

② 3番のサビ部分の表現を工夫してみよう！具体的にどのように歌ったらよいか考えてみましょう。

|                     |
|---------------------|
| 自分で考えた表現の工夫（理由とともに） |
| グループで意見をまとめてみましょう   |

③ 聴く人にどこの部分を特に聴いてほしいか、理由も含めて、自分でまとめてみましょう。

|              |
|--------------|
| どこの部分（歌詞で書く） |
| 理由           |